

## 区内の宗教者団体が被災地支援活動

8日、JR阿佐ヶ谷駅周辺では、区内の宗教者団体が協力して、東日本大震災で被災された方々を支援するため、募金活動や福島県南相馬市、宮城県石巻市の特産品の販売を行いました。募金と物産展の収益金は、杉並区を通じて被災地の復興に役立てられます。

杉並区宗教者懇話会は、昭和62（1987）年に区内の各派宗教者間の交流を通じて相互理解と地域発展に貢献することを目的に発足し、現在、区内の47の宗教団体が参加しています。東日本大震災の支援活動は、平成23年11月に第1回を実施し、今回が6回目となります。

平成23年3月11日に発生した東日本大震災から、まもなく6年が経とうとしています。福島県・宮城県など被災地は、全国からの支援もあり少しずつ復興の道を歩んでいます。しかし、震災後に若者世代を中心に人口の流出もあり、住宅やまちの再建、産業や水産加工業・観光の再生など、まだまだ復興には全国からの支援を必要としています。



8日午前10時、杉並区宗教者懇話会のメンバーによる街頭募金活動が始まりました。区内の様々な宗教団体が集まっていますので、僧侶であったり神職、牧師だったり、それぞれが身につけている衣装も異なりますが、被災地を支援しようとする気持ちは共通しています。今回は、懇話会の参加団体から11団体、およそ90人が会場へ駆けつけ、JR阿佐ヶ谷駅周辺で道行く人々に募金への協力を呼びかけました。

また、同時に開催された物産展には福島県南相馬市の十字に切込みが入り、生クリームとこしあんたっぷりの「よつわりパン」や取れすぎた大根の利用方法として、高校生が考案した「だいこんかりんとう」、宮城県石巻市の牛タンや牡蠣味噌など自慢の特産品が並べられ、多くの買い物客で賑わっていました。南相馬市観光交流課の佐藤さんは、「震災直後から、全国の方から支援を受け、少しずつ復興の道を歩んでいます。今日は、特産品の紹介とともに元気な姿を見せたいと思います」と笑顔を見せました。

### 【問い合わせ先】

杉並区宗教者懇話会（大宮八幡宮） 電話 3311-0105  
総務部広報課 電話 3312-2111